

七夕祭りとお私の願い

一宮市立大和西小学校

六年

吉田結南

よしだゆいな

私は、地元のお祭りが大好きです。屋台でたのんだ食べ物、家で食べるよりもよりおいしく感じるからです。今年の夏休みは、新型コロナウイルス感染症が収まってきたので、数年ぶりに七夕祭りに行くことができました。七夕祭りで食べた物はいつもはちが、てやは、りおいしか、たです。帰、てから、七夕祭りに行けることはとても平和なことだとお母さんが教えてくれました。私はその言葉に納得しました。戦争があ、たときは七夕祭り升たいなお祭りはできなか、たと思います。

戦争と七夕祭りの関係が気にな、たので調べていると、一宮七夕まつりは日本三大七夕祭りの一つであることを知りました。太平洋戦争が終わ、て街が復興してきた昭和三十一年に、地域復興、市の発展、さらなるせんい産業の発展を願い始ま、たことも分かりました。さらに調べると、日本最大級の仙台七夕

まつりは、戦前から開さいされていて、戦争中は次第に自し^ッくの方角へ進み、昭和十四年には開さいが中断されていました。や^ッば戦争中はできなかつたことが知れ、お母さんが言^ッていたことがより分かつた気がしました。さらに、仙台の祭りが十年ぶりに開さいされた日の新聞には、「なみだの出る程なつかしい十年ぶりの七夕祭り」と書かれていて、市民にと^ッてそれだけ大事なお祭りであったのだと感じました。

でも、き^ョうだいがなくならないうに、争いかなくなることはないと思います。私もゲームを取り合^ッて、妹や弟とけんかになることがあります。でも、しょうがないと思います。結局貸してあげることにします。それができるのは、平和な今の生活があるからだと思います。このように、争いが起きても、分け合うことや、ゆずり合う心を持つことはできると思います。人々の生活が安心して送れるものになれば、争いは減^ッていく

と思、こいます。

私たちの生活には、たくさんエネルギーが使われています。そのエネルギーをもっと欲しいと思、たり、足りないと思、たりすると争いが起こります。そんな私たちにできることは無だ遣いさなくすことだと思、います。一番のエネルギーの無だ遣いは戦争です。お金、資源、電気、食料、命、そして人々が集しみにしこいる祭りなど、たくさんぎせいにしてしまふからです。ウラオの気持ちにはうらみの気持ちを生み、決してなくなることはありません。ばくたんを作るエネルギーで、夏はずしく、冬は暖かい家を用意して、戦争に行く人の食料を食べ物がない人に分け、武器を作るお金があれば、快適に暮らせる町も作れると思、います。

来年も再来年も、何十年後も、みんなごかき氷を食べたり、小さい子が光るおもちゃの剣をふり回して遊んでいたりする、平和で楽しい七夕祭りが続いてほしいと思、います。